

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【第111号】2021年6月
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL：03-3383-7800

コープ災害ボランティア基礎講座の第5講が終了し、その時点で受講者37人に修了証が授与され、新しい会員に登録となりました、新型コロナ対応とさまざまな変更で大忙しの1年でしたが、7月の総会で2020年度の活動の締めくくりとなります。

報告

3月27日(土) コープ災害ボランティア基礎講座第5講

災害に負けない地域づくり



講師の栗原和恵さんは、稲城市社会福祉協議会の職員としての視点で地域防災の必要性を認識されていて、また、居住する八王子市の住民としての視点を併せ、具体的かつ迅速に活動を始められました。令和元年台風19号での被災の経験から、「南浅川町災害対策部」を立ち上げ、地域防災力を強くし、地域コミュニティが活性化するように、継続した活動を続けられています。

■稲城市の社協職員として

稲城市の多摩川に隣接する地域は河川の氾濫で浸水する危険性があり、地域ぐるみの防災の必要性を感じていました。まず、地域の住民が災害について話し合い、地域を知ることから始めました。消防署とも連携し、防災講座や「防災まち歩き」などを開催。普段からの備えのおかげで、台風19号では声をかけあって避難所に避難できた方もありました。消防署など関係機関の協力や普段からの声掛けが災害時に役立ちます。その後も毎年起きる豪水害に備え、避難経路を歩く「防災さんぽ」を企画し、防災への備えを繰り返し確認しています。

■八王子市南浅川町の住民として

10月12日は20時～21時の1時間で53mm(前日総雨量35mm)という大量の雨が降りました。甲州街道は川のようになり急傾斜地の崩落や土石流が発生、床上1m浸水した住宅や裏山の土砂や流木が流入した住宅もありました。

重機を持つ町内事業者が泥を掻き出し、八王子社協が13日に現地調査を行い、災害ボランティアセンターを立ち上げました。横浜市の高校の野球部員が2回泥掻きに来てくれたのは嬉しかったです。

その後、消防団員や民生委員さん、町会などに提案し、「南浅川町災害対策部」を立ち上げました。まず町内の危険箇所の調査を行い、個別用のハザードマップを作成し、印刷して全家庭に配付しました。防災講座は地域の被害に差異があるため6回に分けて開催し、今後も繰り返し講座を行います。また災害情報を知る方法や町の対策などをレジュメにまとめて配付し、住民からの情報をどこに連絡するかも明示しました。普段からあいさつなど顔が見える交流があれば、地域の防災力は高められると思います。

Q:災害対策部の活動資金は?

A:八王子社協の助成金を受けています。

Q:町内130軒は復興しましたか?時間と資金は?

A:火災保険が使えず、持ち出しは大きいです。一番被害が大きかったお宅は令和2年の11月でしたが、おおむね2カ月ぐらいで正常に戻りました。

Q:稲城市の「防災さんぽ」に到るまでの取り組みは?

A:地図に浸水地域を色塗りするワークショップ等を行い、実際に歩く必要性に気づき実施しました。私たち

は専門職である消防署の力を借りたい、消防署は住民との繋がりたいと思っていました。

Q:八王子ボランティアセンターとの関わりは?

A:近隣の社協が連携する南多摩ブロックで応援に行き、ボランティア派遣などを手伝いました。その時に自分の地域でもボランティア要請してよいとわかりました。地域の人たちの「人に迷惑をかけてはいけない」という意識が強い所を説得し、派遣してもらいました。



聞き手は福田信章さん

台風19号は東京の広範囲に被害をもたらし、中でも八王子市は土砂災害と浸水災害で凄まじい被害を受けました。今回亡くなられた方はおられなかったですが、「次はわからない」と思うことが大事です。CO災ボ基礎講座の受講者のみなさんは、まず家族や自分の地域で防災に取り組んでもらいたいです。そこから一歩踏み出してアクションを起こす時のために、被災した経験から地域の防災減災に住民として取り組む栗原さんのお話は、エールでありヒントになると思います。

講義の後は福田信章さんの進行により、「+（プラス）ONE」プログラムに全員でチャレンジしました。「お題」に対して自分がどう対応するかを選び、理由を考えます。災害対応には必ず正解があるわけではないので、ゲームを通じて様々な意見や価値観を共有することができました。

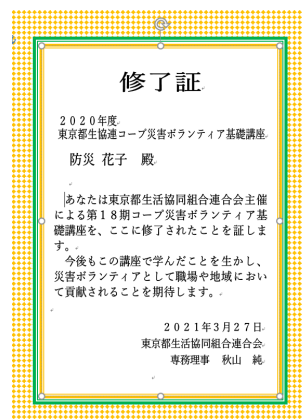
通常なら、最後に受講者に修了証の授与式を行います。今回は東京都生協連の秋山純専務から「修了に向けてのあいさつをいただき、修了式としました。



基礎講座の受講者アンケート

- ・災害について一般的知識しかもってなかったが、起きる前に準備すべきこと、確認しておくこと、また人と人の繋がりが災害の際には救いになるということを知った。受講できてよかった。
- ・講座を受けるたびに実家の家族とシェアし、何ができるかを話し合った。今後社協を含め、地域の活動に参加したいと思う。
- ・1回目を除いて、全てリモートの講座になってしまい、対面で受講できなかったことは残念だった。しかし、中止にならず、最後まで受講できたことは良かった。元気な者は助け合う気持ちで、自分にできることから始めたい。
- ・ボランティアとして参加する側、運営する側、被災者など、様々な視点での具体例を共有できた。
- ・「プラス ONE」は、正解がないところに妙味があり、いろんな立ち番やその時の状況により考えが変わるので、多くの機会で行ってみたい。

2020年度第18期コープ災害ボランティア基礎講座は、新型コロナ下でも、座学でしっかり学ぶことを大事にして構成しました。ただし、第3講「普通救命講習」は、2021年6月5日に延期し開催を予定していましたが、緊急事態宣言延長により実施は断念しました。第18期の受講者がお互いを知る機会でもありましたので、とても残念です。また、開催方法や日時などの変更により、受講者には調整をお願いすることが度々あり、会員の交流や意見交換の機会や体験型の講習ができませんでした。今後のスキルアップ講座などでフォローできればと思います。



コラム by 宮本陽子幹事 その2 ～私の防災、わが家の防災～

2011年3月11日東日本大震災の時、皆さんはどこにいて、どのように対応しましたか？私は中野にいたのですが、最初の揺れから1時間ほどして、少し落ち着いた頃に帰路に着きました。途中、全面ガラス張りのお洒落なビルのガラスが砕け一帯に飛び散っていたり、建てかけのビルの上の重機が不気味に揺れていたりと不安を掻き立てられながらも、急ぎ自転車のペダルを踏んで家に戻りました。ワンニャンが心配だったのです。

家の中はトースターが落ち、椅子などが多少ズレていましたが、大きな被害は見つかりませんでした。ワンニャンも皆無事・・・と思ったら、3ワン3ニャンしかなくて1ワン足りません。名前を呼んでみると、閉まっているサッシの向こうから声が・・・。1ワンは、なんとベランダにいました。昼間はベランダ側を少し開け簡易ロックをして出かけるのですが、揺れでロックが外れ硝子戸が開き、その時1ワンはパニックでベランダに逃げたのでしょうか。そしてその後の揺れで硝子戸が閉まってしまったのでしょうか。余震がある中、マンションや周辺の建物の非常ベルも鳴り続けていたのでしょうか。その1ワンは、その後、年に2回の非常ベルの点検の時には、かわいそうなくらい身を震わせていました。現在は、ベランダも好きではありませんでしたが、16歳でボケと耳が遠くなったことで、ベランダも非常ベルも大丈夫になりました。

ワンニャンと生活してきた我が家にとって、災害時にどのように対応するかは常に課題です。現在、19歳のニャン、4歳のニャン、16歳のワンがいますが、災害があった時は、基本は我が家で、または車で1カ月と覚悟しています。ごはんや飲み水、ペットシートや猫砂、臭わん袋はもちろん、毎日の薬や消毒薬、寝床のシートやタオル、連絡先や名前や特徴（年齢や病気など）をつけた首輪、ワンニャンベッド、移動用のカートなどを、日頃から玄関先や車の中に用意しています。家族であるペット、それぞれの家のそれぞれの防災があると思いますが、ちょっとしたことでよいので、毎日一度は「今、地震があったら…」などを考え、日々家族で話すことが大切だと思っています。